

ウォーキングクラブ 10月定例会・海上の森と物見山



海上の森駐車場には綺麗なバイオトイレ在り



深山幽谷を想わせる篠田池で笑顔の記念撮影

10月に入り、朝晩はめっきり涼しくなり、ウォーキングには良い季節になりました。ウォーキングクラブは去年に引き続き、今年も定番の海上の森です。

名古屋市から1時間半で来られ、自然環境が良く保全されているのが魅力です。

深山幽谷を想わせる篠田池と薄い藪漕ぎの杣道や、雨裂の激しい山道は、ウォーキングが初めての方にも変化があって興味を持たれるのではないかと期待して企画しました。

朝8時40分にリニモ藤が丘駅集合、男性11名・女性8名、合わせて19名の方が参加されました。

リニモ藤が丘駅から8時51分発、八草駅で愛知環状鉄道に乗換えて9時21分発、トンネルを抜ける一区間で山口駅に9時24分に着きました。山口町の住宅地をしばらく東に進み、山口川を渡り国道R248のカルバートンネルを抜ければ、一気に風景が変わり豊かな自然環境の海上の森です。

海上川を渡り四つ沢を左折すれば、「まむし注意」「スズメバチ注意」「いのしし注意」等の注意喚起看板があり、日頃都会では体験できないワイルドな自然環境です。



大正池は稲刈りで水が落とされて砂漠状態です



篠田池の上流の葦の原は秋の風情

足元は夏草が伸びて薄い藪漕ぎ状態で、道幅は狭い沢沿いの登りが続きます。

歩くには何ら問題なく、道の周りは夏の名残りの緑濃いクヌギ・コナラ等の落葉樹が多く、あたかも緑のトンネルを思わせる山道です。1週間ほど天気も続いているので、道はあまりぬかるみも無く安心して分水嶺に向かうことができ、30分ほどで分水嶺を越えれば、篠田池はもう直ぐです。

事前調査によれば、篠田池には夏の間はカルガモ親子が見られたとのことでしたが、今は至って静かで、湖面にはさざ波と森の陰を写すのみでした。

皆さんには、何か都会では味わえない自然環境の趣向があれば興味を持っていただけるのにちょっとガッカリ感です。

山道の両側には猪の牙による掘り返しが多数ありましたが、カモシカやリスにも遭遇することもなく至って穏やかなウォーキングです。

しばらく進み、近道三叉路の道標に到着です。案内立て看板によれば、直進すれば距離が長い安全な作業道、右折は近道の登山道を辿ります。元気な皆さんの声を聞いて分水嶺を越えて近道の山道を辿ります。



物見山山頂からの展望、遠く養老山脈・伊吹山のシルエット、手前には瀬戸デジタルタワー、眼下には箱庭のような赤い瓦屋根の里山サテライト「かたりべの家」が見えました。

篠田川の水源地近くの沢道は湿地帯で、丸太が渡してある歩き難い泥濘状態の腐朽木道です。脚が弱い方は躊躇されましたが、根性と気合でクリアされました。

木道を後にして、小さな沢の渡渉があり、4本程の間伐丸太による橋が架かっています。バランス感覚があれば何と言うことも無い小さな沢渡渉です。やや不安な方も見え皆さんで手助けと励まし合いながら危ない丸太橋を緊張と慎重で全員クリアしました。

この後、小さな分水嶺を越えて、あまり陽のささない樹齢100年以上の杉や桧の植林地の杣道を気分良く足取り軽く下ります。

最後の難関は北海上川の丸太橋を渡ります。沢の幅はそれ程ありませんが、橋と沢水面の高さが1.5mほどあり高度感があります。滑り止めの栈木や、手摺が付いて居れば安心感がありますが、一切ありません。慣れていないとやや不安になります。不安定なので一歩一歩の足の踏出しに、かなり危険を感じます。皆さん協力し、声を掛け合い無事全員が橋を渡ることができました。

渡り終わって「ヤレヤレ感」いっぱいです。

これで一般コースは終わり、11時半過ぎに里山サテライト「かたりべの家」に到着して、ランチタイムです。



物見山山頂での記念撮影

食事が終わったところで、物見山に登山する方は里山サテライトを後にして、猪対策の防護柵のゲートを通して畦道を辿ります。

海上の里の田圃の稲穂の風景を愛でながら見れば、今風の若い女性が手鎌で稲刈りをされていました。子供頃にはあたり前の風景でしたが、今ではこのような風景は珍しく、ボランティアの農業体験の方だったかもしれません。

物見山の登りは息が上がらない程度にゆっくり登ります。30分程で山頂です。物見山の健脚コースの有志は男性6名・女性4名の10名の方が登頂し、山頂で小休止です。帰路は皆さんの意見で海上の森センター経由で、リニモ八草から帰ることになりました。

雨で花崗岩の踏み石周りの砂が流れ、ステップが高くなり、50cmほどの段差が多く、かなりハードな下りでした。急坂を下り林道に合流して、海上の森センターに14時過ぎに到着です。テラスで小休止、おやつや水分補給をして、海上の森ゲートを後にして、愛工大沿いの県道歩きで八草駅に15時前に到着し、藤が丘で解散しました。

山行後、宝角リーダーからのLINEによれば、一般コースをウォーキングした9名の方はアザミに止まる渡り蝶のアサギマダラ(浅葱斑)に遭遇したそうです。

海上の森から九州を經由して沖縄か、あるいは台湾まで飛翔するのが不思議な気がします。それは貴重な良い思い出になることでしょう。

(撮影 北川健一・記 宮田岩男)



手鎌で稲刈りの農業体験

